

歯科技工問題についての 議員要請 (5月24日)

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会は、歯科技工問題についての解決を図るため、国会議員要請を実施しました。

懇談には、全国連絡会・雨松真希人会長、大阪連絡会・西川勝美さんなど歯科技工士をはじめ、東京、京都、兵庫の各県連絡会、保団連、全日本民医連などの歯科医師ら16名が参加、山本和嘉子衆院議員（立憲）、倉林明子参院議員（共産）、山添拓参院議員（共産）らと懇談しました。

懇談では雨松会長がパンフレット『日本の歯科技工を守ろう』をもとに、保団連歯科技工所アンケートの結果では過労死ラインを上回る長時間労働が3割を超え、可処分所得300万円以下が半数以上、歯科医療費が少ないために末端の歯科技工士まで行き渡らないなどの実態を報告しました。また、1300億円があれば、製作技術料を「7:3」に準じる引き上げが可能であること、歯科技工士に適切な技術料が手わたる実効性ある取引ルールが必要であることなどを訴えました。



山本和嘉子衆議院議員と



倉林明子参議院議員と

山本議員は「歯科技工士が技工物を作るにあたり、何度も歯科診療所に足を運び技工物を運ぶにも関わらず長時間労働・低報酬での苦慮されていることがよくわかった。

（学校歯科治療調査について）子どもの貧困問題なら取り上げやすい。勉強していきたい。」、倉林議員からは「厚生労働委員会でぜひ歯科技工問題で質問したい。自民党の中でも医療費抑制する財務省への抵抗感も高まっており、私の質問に拍手することもある」などと話しました。山添議員は、技工士の異常な労働時間について大きな関心を示し、「現場の声を聞けるのはありがたい。しっかりと受け止めていきたい」と応じました。